

# シンラの旅-19 「カナダ」 建国150周年 極北の大地に生命が燃える



エッセイ  
芦原 伸



# SINRA

# CONTENTS

各見出しリンク

▶ **SINRA-1 2014.9**  
「小豆島」 オリーブカントリー

▶ **SINRA-2 2014.11**  
「秋田」 マタギの里へ

▶ **SINRA-3 2015.1**  
「富岡」 富岡製糸場の歩き方

▶ **SINRA-4 2015.3**  
「北海道」 北海道ワイン紀行

▶ **SINRA-5 2015.5**  
「小笠原」 黒潮の孤島鶴来島漂流

▶ **SINRA-6 2015.7**  
「大台ヶ原」 熊野古道をいく

▶ **SINRA-7 2015.9**  
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日

▶ **SINRA-8 2015.11**  
「霊峰月山」 死と再生の小宇宙

▶ **SINRA-9 2016.1**  
「丹後」 古代王国と、絹をめぐる道

▶ **SINRA-10 2015.3**  
「秩父」 絶滅危惧種再生へ、開ける道

▶ **SINRA-11 2016.5**  
「佐賀」 大海を越えた胡蝶の夢

▶ **SINRA-12 2016.7**  
「津軽」 ブラキストン幻の海

▶ **SINRA-13 2016.9**  
「五島列島」 クジラたちの海

▶ **SINRA-14 2016.11**  
「飯田」 天空の里、遠山郷

▶ **SINRA-15 2017.1**  
「北海道」 ジンギスカンをめぐる冒険

▶ **SINRA-16 2017.3**  
「宮城県」 猫たちの聖地

▶ **SINRA-17 2017.5**  
「京都」 神が授けた、いのちの水

▶ **SINRA-18 2017.7**  
「熊楠」 の森をめぐる冒険

▶ **SINRA-19 2017.9**  
「カナダ」 極北の大地に生命が燃える

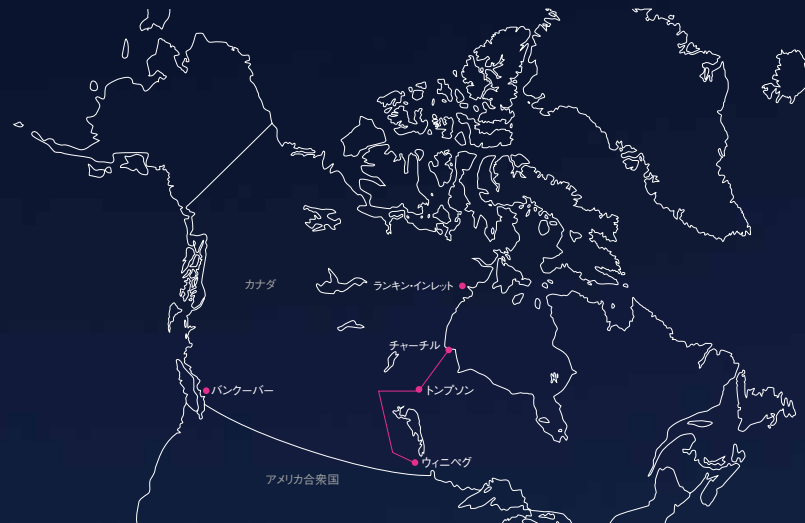
▶ **SINRA-20 2017.11**  
「宮崎」 神楽仮面の謎を探る

ご購入

 Fujisan.co.jp  
雑誌がオンライン書店

ご購入

 amazon.co.jp  
プライム



# 極北の大地に いのち 生命が燃える



## カナダ建国150周年

カナダ・極北の地。ホッキョクグマの首都、チャーチルと極北の少数民族イヌイトが暮らす町、ランキン・インレットを訪れた。見わたす限り、凍てつく白が広がる極限の地で生きる彼らの流儀と覚悟、そしてむき出しの食物連鎖。そこにあるすべてが「生」を体現していた。今日もこの巨大な白のキャンパスの上には、生きものたちの赤い命の鼓動が、絶えず脈打っている。

文◎芦原 伸(ノンフィクション作家)  
撮影／戸川 覚 協力／カナダ観光局

カナダの先住民イヌイトが、石を人型に積み上げてつくる石像「イヌクシユク」。ランキン・インレットの小さなコミュニティを見守るように、小高い丘にそびえたつ





ハドソン湾が結氷する10月から11月にかけて、チャーチルにはホッキョクグマが“集結”する。ツンドラバギーに乗り、ホッキョクグマを間近で見られるツアーも行われる ©カナダ観光局



### ホッキョクグマの首都

カナダ、マニトバ州、チャーチル。気温マイナス5度、晴れ。無風――。

5月上旬、初夏の東京を発ち、北緯58度のチャーチルとの気温差は30度！ 覚悟してきたせいか、寒さはさほど感じない。

チャーチルは極北のハドソン湾に面した小さな町だ。人口約1000人。ホッキョクグマの首都Capital of Polar Bearの異名がある。町は5分も歩くと、荒野の片隅に出してしまう。

ハドソン湾に面した海岸にそってメイン通りがあり、スーパー、ホテル、ガソリンスタンドが並ぶが、町らしきものはただそれだけだ。あとは数本の未舗装道がのろのろと海岸へと延びている。

ハドソン湾にそって歩いた。海を見晴らす丘があり、そこから眺めると、360度の風景が手に取るようだ。と、言っても前方は水結する海、振り向いてもツンドラの氷原で、水平線から地平線までの白いキャンバスの上に無限の蒼空が広がる。まさに極北。地球を独り占めと、思わんばかりだ。ポツンと、石のオブジェが立っていた。

不思議な形をしている。すんぐりむつくりの人の姿のようでもあり、あ



上/マニトバ州野生動物保護局の所長、ブレット・ウロックさん 下/町に近づきすぎたホッキョクグマは捕獲され、一時的に保護する Photo courtesy Province of Manitoba



### 水平線から地平線までの白いキャンバスの上に無限の蒼空が広がる

るいは道標、ケルンのようでもある。イヌイットの道祖神か？

何か、思いを伝える人のようにも見える。

イヌクシユクが一体何を伝えようとしているのか――という素朴な疑問から旅ははじまった。

チャーチルのこれまで、これから

まずは市長に会った。

マイク・スベンス(60歳)は20年来市政を任されている。チャーチルに生まれ、高校卒業後、ホテルや観光関係の職場で働いた。12歳の時からアルバイトをしてお金を稼いだ、という実業家志向だ。

精悍な風貌、肌は茶褐色、ジーンズ姿のラフな装いで、政治家には見えない。野性的な鋭い眼、白い歯がきれいだ。

ハンサムだと言うと、「じゃなきゃあ、市長はできないよ」と、ご機嫌になった。

「チャーチルはもともとテネ人のエリアだった。その後クリー、イヌイットが移住し、3つの部族が混住していたが、17世紀になって白人が毛皮を求めてやってきた。今は白人と先住民が半々で、イヌイットは少ない。ぼくはクリーの出身だ」

いつまでも伝統にしがみついているたくない。父親の世代とは違う生き方をしたかった。クリーはカナダ・ファーストネイションズ(先住民)のひとつで、マニトバ州では最大勢力で、他部族とは交わらず純血を保っている。

「チャーチルは1950〜60年代、陸軍の施設があった。その時人口は6000人を超えた。NASAの

オーロラ研究所もあったんだ。72年に軍が引き上げてからはご覧の通りさ」

市長になる前のことで、そのころマイクは市政に参加したばかりだった。「生まれ変わりの時期だった。州政府が資金を投じ、再生を図った時期だった。その時、港湾整備や観光産業をはじめていれはよかった」

今後のビジョンは？ と、きくと、「まずは港と鉄道を復活させたい。次に医療機関の充実、さらには観光産業の活性化、研究・リサーチ機関の誘致が私の4つの方針だ」

観光の目玉は、夏のベルーガ(白イルカ)と秋のホッキョクグマ。冬の氷結した海の美しさ、オーロラも魅力だ。研究所に関しては、チャーチル・ノーザン・スタディーズ・センターが中心となり、気候変動や海洋の調査・研究が続けている。

「ホッキョクグマは以前はスポーツハンティングだった。82、83年ごろに激減して、保護運動が盛んになった。起爆剤は、アメリカ人の野生動物写



# カナダ

## ジプシーズベーカリー

Gypsy's Bakery

253 Kelsey Blvd  
 営業時間 月～土曜日 6:00～22:00  
 TEL 204-675-2322  
<http://www.gypsybakery.ca/>

### 25年続く、地域に根ざしたベーカリー&レストラン

今年で25周年をむかえる地元で人気のベーカリー&レストラン。チャーチルでは多くの店が夏から秋にかけての観光シーズンにしかオープンしていないが、ここはほぼ通年営業の数少ない店。店主のヘレンさんはポルトガル生まれなので、ポルトガル料理も楽しめる。肉料理が豊富で、なかでもステーキサンドイッチは絶品だ。

上/ジプシーズベーカリーの外観 中/店内のイートインスペースは広く、町の人でにぎわう 下/ボリューム満点のサンドイッチ



## エスキモーミュージアム

Eskimo Museum

253 Kelsey Blvd  
 営業時間 月～土曜日 13:00～16:30(冬季)  
 TEL 204-675-2030

### イヌイット文化を 間近で感じる博物館

1944年に設立されたイヌイットの民俗博物館。ベルギー人のカトリック宣教師 Franz Van de Velde が収集したイヌイットの衣装や道具、アート作品が展示されており、紀元前から現代に至る、暮らしの変遷をたどることができる。博物館の中にはギフトショップもあり、絵画やポストカード、ぬいぐるみなどが売られている。無料で入場できるので、気軽に立ち寄れるスポットだ。

上/エスキモーミュージアムの内観 中/ホッキョクグマの頭骨も展示されている 下/館内で販売もされているアート作品



ホッキョクグマの首都・  
 チャーチルの旅を満喫する

## チャーチル 観光ガイド& おすすめスポット

ホッキョクグマやオーロラの観測地として知られるチャーチルは人気の観光地だ。チャーチルの旅の基本情報と、今回取材で訪れたスポットを紹介。極北の町ならではの魅力にふれてみよう。



左/チャーチルにあるイヌクシュク 右/チャーチル駅の外観

## シーポートホテル

The SEAPORT HOTEL

215 Kelsey Boulevard  
 Tel 204-675-8807  
<http://www.seaporthotel.ca/>

### チャーチルで唯一の フルアメニティホテル

チャーチルで唯一、一年中オープンしているホテル。設備も充実しており、朝7時からオープンしているカフェでは、コーヒーのおかわりが自由。カクテルラウンジとスポーツバーも併設されており、夜の遊び場がほとんどないチャーチルでは貴重な存在である。チャーチルのほぼ中心に位置しておりアクセスがよく、空港と駅へのシャトルバスも運行されている。

上/シーポートホテルの外観 下/ホテルのロビー。ホッキョクグマの写真が壁に掛けられている



### Churchill Travel Information

州名 マニトバ州  
 面積 53.96km<sup>2</sup>  
 総人口 約1000人  
 公用語 英語、フランス語(主に英語)  
 時差

カナダは6つのタイムゾーンに区分されていて、チャーチルの時間は中部時間にあたり、日本との時差は-15時間(サマータイム時は-14時間)。

### 気候の特徴

チャーチルに観光客が訪れるのはおもに7月から11月の間。7月から8月にかけてがチャーチルの夏だが、この時期の平均気温は12度。9月を過ぎると急激に気温が低下し、平均はマイナスになる。

### アクセス

【日本～ウィニペグ】成田空港から直行便でバンクーバーへ。所要時間は約8時間半～9時間。バンクーバーから乗り継いで、ウィニペグへ。所要時間は3時間弱。

【ウィニペグ～チャーチル】ウィニペグから空路でチャーチルへ。所要時間は2時間半。陸路ではVIA鉄道を利用して行くこともできる。週に2本しか運行していないが、冬には列車からオーロラが見られる可能性もある。所要時間は約48時間、丸2日かけて極北の大自然の中を横断する。